

20 周年を迎える高萩市との友好都市提携

— 協定締結に至る背景 —

飯能市立博物館 学芸職員 村上 達哉

飯能市は茨城県高萩市と平成 15(2003)年 11 月 1 日、飯能市市制施行 50 周年を記念し、飯能市市民会館で友好都市提携の協定を締結しました(写真 1)。今年で 20 周年を迎えます。友好都市提携の呼びかけは、高萩市からなされました。飯能市職員として市史編さんに携わり、後に飯能市友好都市交流委員会 2 代会長を務めた浅見徳男氏はこう記しています。「～(前略)高萩市議舟生氏から飯能市へご連絡いただき、飯能市の企画部長など 3 名の市職員が高萩を訪問したのが昭和 60 年」(「飯能市・高萩市友好都市提携 10 周年記念誌」以下「記念誌」)。高萩と飯能の交流の先がけです。



写真 1 友好都市提携の協定締結の様子

舟生佳紀氏は、高萩市観光協会の会長を務めていた平成初め頃から飯能に来られ、「城主中山様のご縁で友好都市を結びたいと高萩市観光協会や高萩市明るい社会づくり推進協議会メンバーで飯能市を訪れました」と「記念誌」に記しています。また、『文藝飯能』第 29 号に掲載された「交流の先達」では、次のように語っています(以下「」は全て「交流の先達」より引用)。「私の小さい頃は、松岡城とは言わず、竜子城とか竜子山と呼ばれていました。～(中略)～休み時間や放課後の遊び場はお城でした。ですから『ここに殿様がお住まいになっていたんだなあ』というごく自然に湧いてくる親近感というか、一体感というか、中山の殿様を軸としたゆるやかな共同体のような雰囲気にも包まれて育ってきました」

松岡城は高萩市にあった城で、その城主が水戸藩付家老中山氏です。2 代信正の頃に城主となり、松岡城地下手綱村の一部(現高萩市下手綱)を領有しました。舟生氏が言う「中山の殿様」の始まりです。信正の父が初代信吉(写真 2)で、中山(現飯能市中山)で生まれ、水戸藩付家老まで出世しました。舟生氏の「中山の殿様」への「親近感」「一体感」は、いかにも城下町で育った方ならではのものです。



写真 2 中山信吉木像(智観寺蔵)

また舟生氏はこのような思いを明かしています。「(飯能市を)訪ねてみると、確かに中山信吉公の墓などあり、高萩との繋がりを感じることができましたが、飯能の皆さんが、今一つ、中山氏に対してあっさりしているようで、もどかしいような思いも致しました。～(中略)～しかし、数度にわたって訪問した後、平成 5 年には飯能から郷土史の研究者が高萩を訪れました。このことが一つの転換点となった感があります」

「転換点」を作ったのは、飯能郷土史研究会と加治郷土資料同好会です。当時加治郷土資料同好会の会員であった青木晃平氏は、平成 5 年の高萩市訪問についてこう語っています。「～(前略)中山氏の縁の地を訪ねるのが目的でしたが、市長・助役・議長・教育長・市議会議員の皆さんから、予想もしない歓待を受けました。～(中略)～帰飯後、訪問した人たちの間では、『中山氏を顕彰し、交流を進めるべきだ』という機運が高まっていきました。その先頭にあったのが、西野長治さんでした」

西野長治さんは当時、加治郷土資料同好会の会長を務めていました。「なぜ高萩なのか」という説明会では、模造紙に茨城県と高萩市の地図を描いて説明。高萩から飯能に来られた団体への接待では、宿の手配・訪問先への折衝・宴席の段取りなど一切合切を引き受けていたそうです。

友好都市提携の協定締結に至る背景には、熱い思いに満ちた交流の積み重ねがあったのです。

【引用・参考文献】

「飯能市・高萩市友好都市提携 10 周年記念誌」 飯能市友好都市交流委員会・飯能市・高萩市 平成 26 (2014) 年
沼崎修一「交流の先達」『文藝飯能』第 28 号 飯能市教育委員会 平成 21 (2009) 年